



洋菓子

▼「洋菓子のまち・神戸」と若手人材の育成

一般社団法人兵庫県洋菓子協会は、若手パティシエを育成し「洋菓子のまち・神戸」をPRするため、二つのコンテストを開催している。

一つ目は、昨年11月14日～16日に北野工房のまちで開催された『第65回クリスマスケーキコンテスト』である。コンテスト会場には6部門58作品が出展された。審査は有名パティシエによってテーマ、デザイン性、色彩などを基準として行われ、第一部デコレーションケーキの部ではAクラス（経験年数5年以上）で1作品、Bクラス（5年未満）で9作品が入賞し、全体で28作品が表彰された。

二つ目は、同協会が公益財団法人神戸ファッション協会と主催した『2024 洋菓子フェスタ in Kobe』における「デコレーションケーキコンテスト」で、4月24日～30日に大丸神戸店にて開催された。同コンテストは「デコレーションケーキの部」（マジパンと呼ばれるお菓子の飾り付き）と「ピエス・アースティック※の部」の2部門で実施され9作品が入賞した。また、フェスタ期間中は4人のパティシエがお客さまの目の前で大型鉛細工を製作して美しさを競うコンテスト「神戸洋菓子職人道」や神戸マイスター3名によるロールケーキの製作、有名パティシエによるケーキ講習会なども開催された。

※ピエス・アースティックとは：鉛細工、パステイヤー、ジュなどを駆使し一つのテーマを表現した装飾菓子。

播州織

▼播州織の魅力を広める

西協市は2024年度から市内4中学校の制服を統一したものに一新するのに合わせ、今年4月に新1～3年生となる市内の中学生全員に地元企業が縫製した「播州織シャツ」を1枚ずつプレゼントした。同シャツが制服シャツのひとつに指定されたことに伴い、「播州織」への理解と愛着を深めてもらうことを狙った施策である。支給対象は2009年4月2日～2012年4月1日生まれで、私立など市外の中学校に通う生徒も含む約1100人である。

また、大阪・関西万博を機に兵庫県が展開する「ひょうごワールドパビリオン」のひとつに播州織のプログラムが認定された。「地域一体型オープンファクトリー」と称する企画で、参加者は西協市および多可町にある播州織をはじめとした多様なジャンルのものづくり現場を見学し、職人と交流することで地域産業の魅力を体感することができ、生産現場から播州織や地域の魅力を発信していく中で、関心が広く高まる。ことが期待される。

西協市中学校制服播州織シャツ支給事業

令和6年度から、市内4中学校の統一制服の導入に合わせて写真の「播州織シャツ」が制服シャツの一つに採用されたことに伴い、西協市では中学生のみならず、地場産業「播州織」への理解と愛着を深めていただくために、令和6年4月に中学1年生～3年生に入学・進級される市内在住の児童・生徒のみならず、この「播州織シャツ」を1枚プレゼントいたします。



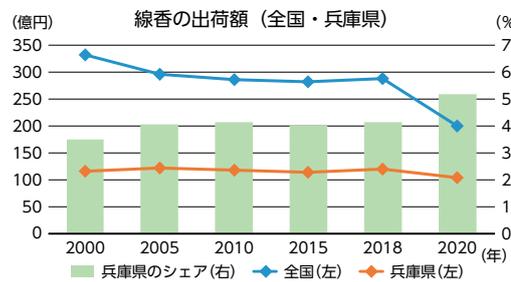
資料：西協市役所

線香（淡路）

▼淡路島から海外へ

2020年の全国の線香の出荷額は201億円、淡路島を主たる産地とする兵庫県の出荷額は105億円と全国の約5割を占め、同期間の減少率は10:5%にとどまっている。

線香の仏具としての需要が縮小する中、兵庫県線香協同組合（淡路市）は「香りを楽しむお香」として、香り市場への本格参入を目指している。例えば、昨年10月に調香師をフランスから淡路島に招き、万博を見据えた東洋と西洋の香り文化を融合する「新しい香りの世界」の創作活動に取り組んでいる。また、同組合が企画した島内の線香工場の見学やお香づくりなどの体験ツアーが、大阪・関西万博を機に兵庫県が県全体で展開している「ひょうごワールドパビリオン」の体験型地域プログラムのひとつに認定された。このほか、近畿経済産業局は12の地域ブランドを選定し知名度向上やインバウンドの獲得など支援しており、「淡路島の食と香り」がそのひとつに選ばれた。香り市場における線香の位置づけが高まっていくことが期待される。



資料：総務省 経済センサス (2015年、2020年)、経済産業省 工業統計調査

域プログラムのひとつに認定された。このほか、近畿経済産業局は12の地域ブランドを選定し知名度向上やインバウンドの獲得など支援しており、「淡路島の食と香り」がそのひとつに選ばれた。香り市場における線香の位置づけが高まっていくことが期待される。